

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人愛誠会 児童発達支援支援センター セレン学園			
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 15日		～	令和7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40名	(回答者数)	29名
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 15日		～	令和7年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	28名	(回答者数)	23名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 27日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っている。	システムや電話で悩みを聞きその日に対応することを心がけています。その場で返せない質問などは適宜専門職や他の職員と相談し、返すようにしています。	引き続きその日のうちに対応することを心がけて、保護者様の悩みが多く感じた際には担当者会議を開き、困りごとを減らし、支援の質向上に努めて参ります。
2	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている。	毎日欠かさず記録をしています。話し合いを重ね、支援等について具体的に話し合いをしています。いつもと違う様子は必ず記録しています。コメントだけでなく、写真を使って配信しています。	引き続き記録を残すことは続け、記録だけでなく変化や異変がある際は適宜電話で対応し、迅速な対応ができるよう取り組んでいきます。
3	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応を行っている。	医師の指示書を提出してもらっています。 管理栄養士より、毎月のアレルギー代用のメニュー等を提示、説明しています。看護師、栄養士が連携を図り対応しています。また、契約時はアレルギーの確認をしています。	引き続き毎月のアレルギー代用のメニュー等を提示、説明、面談時などで適宜アレルギーがないか確認をし、細心の注意を払っていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援が行われていない。	保護者懇親会はあるが、兄弟が交流できる機会は現在無いです。	兄弟が参加できる活動を考えて行きます。また兄弟については、夏休み等に兄弟参加の行事等を検討していきます。兄弟、家族の支援をしていくことで本児の家庭での安定につなげていきます。
2	支援終了後に職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているが、毎日定時に行うまでには至っていない。	前日の帰りの夕礼時に翌日のクラス等での活動の共有が必要と感じます。 勤務時間によって朝の打ち合わせや終礼に参加ができないパート職員や時短勤務の職員への周知が徹底されていないことがあります。	朝の打ち合わせや終礼のあり方を見直し、支援についての情報共有を心がける。また、朝礼、夕礼で伝えたことを共有ノートにまとめ、必ず見てもらうようにしていきます。
3	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等の機会が不足している。	懇親会等で保護者様が同じ悩みを共有したり、相談できる場を作っていますが研修等は行えていません。 もっとより多くの保護者が参加できるように情報提供をすると更に良い。	施設としての情報提供が不十分があり、情報収集の場が少なく、適切な情報提供ができていない為、研修に積極的に参加をし情報を集める。就学に向けた支援助言の場を徹底していく。